

# 植物の病気 AIが診断

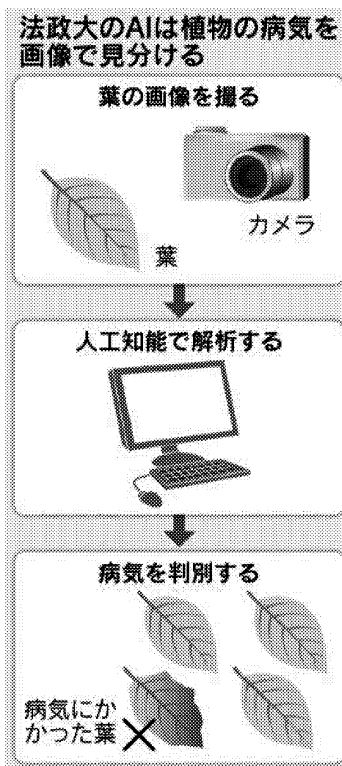
## 法政大など

法政大学の鍵和田聡専任講師らは人工知能（AI）を使い、植物の病気をスマートフォン（スマホ）などの画像から判別する技術を開発した。キュウリの葉の画像をもとに、12種類の病気などを見分けることに成功した。不慣れた作業者でも現場で簡単に病気を見分けることができる。ドローンで撮影した画像でも解析できれば、農業の効率化に役立つ。

埼玉県農業技術研究センターを与えるとその特徴を自ら見つけることができる。

鍵和田専任講師らはAIの一種、深層学習（ディープラーニング）を利用し、キュウリを対象に試した。画像解析を得意とした。AIにモザイク病や退緑黄化病など12種類とする技術で、大量のデータ

## 葉の画像で判別、精度8割 農業効率化に一助



の病気の葉の画像と、正常な葉の画像をそれぞれ750枚読み込ませて、病気の特徴を学ばせた。教えたのは別の画像をそれぞれ250枚用意し、見分けるテストをした。正常な葉と12種類の病気のもの約8割の精度で見分けることができた。

屋外で撮影した画像は、日光の当たり方などにばらつきがある。開発したAIは、葉の半分しか光の当たっていないなど他の作物でも開発する画像を使って解析しても、通常と同じように病気を見分けることができた。ドローンに搭載したカメラや植物工場に設置したカメラを使って自動で病気を確認できるようにする。新技術は農業の効率化や人手不足の解消に役立つ。病気を防ぐために農薬散布などをしているが、その作業は大きな負担だ。新技術を使えば経験の浅い人でもすぐに病気に気づき、適した処置ができる。（遠藤智之）